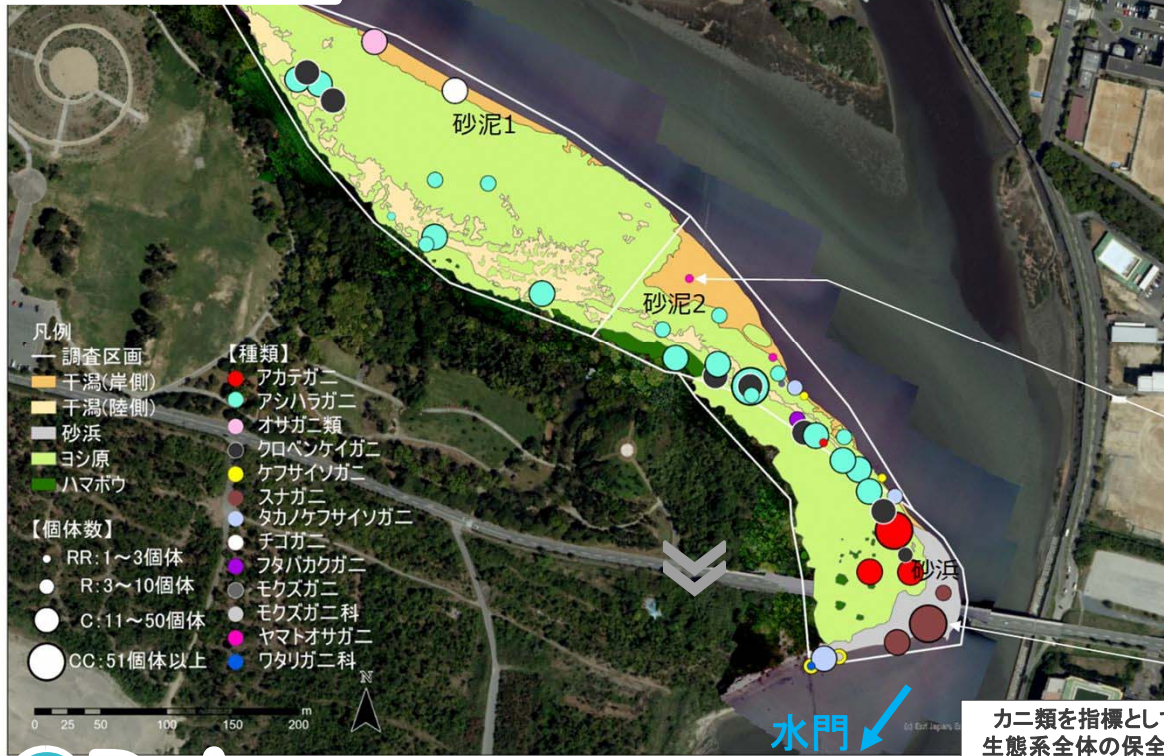


馬込川河口水門と 河口域のエスチュアリーへの保全

Keywords : 河口域, 干潟, 地形の保全, 生態系の保全, 地元が監視

Before



カニ類を指標として地形と生態系全体の保全を目指す

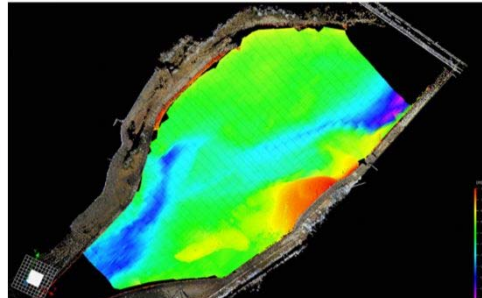
Doing

定期的を実施する詳細な地形モニタリング(ドローンがあれば、地元高校生でもできる)

ラジコンボートとソナーによる3次元の河床測量を毎年実施し、仮締切工による周辺の河床地形の変化を詳細に把握する。(下図はR3.3月実施)

ドローンにより毎年9月の大潮干潮時に空撮し、干潟・湿地面積を計測する。(下図はR3.9月実施)

両側の防潮堤はR2.3月に完成。残すは水門のみ



津波対策水門を整備する河口の近くには、県内有数の広さで、多様な生物のゆりかごになっている湿地と干潟が存在する。水門整備による影響を低減させるとともに、地域から注目されていなかった場所に目を向けて、モニタリングと保全の担い手を育てるための取組を始めた。

貴重種の有無に固執せず、生態系全体を保全することに注目していること、事業完了後も地域でモニタリングを継続できるように、簡易な調査手法での調査を実施していることがポイント。